

① 渋谷本館展示(5/10~5/19)の解説

伊勢物語

一 版本のいろいろ

展示品

期 S.57 5月10日~5月29日

伊勢物語

角倉本

(黒川文庫)

版本 二冊(上下)

慶長十四年(1609)板

内題、題簽 ともになし

角倉本は、嵯峨本、光悦本とも称せられる。つまり角倉素庵によつて、京都の嵯峨で出版せられたもので、本阿弥光悦も、版下の文字を書いたり、装幀に意匠を凝らしたりした故に、これらの呼称がある。この角倉本は、印刷の鮮明と字体の特色など、当時の印刷界に新風をふきこんだ出版で、紙質も細かい雲母を入れた上質紙である。

伊勢物語

(黒川文庫)

版本 一冊

大本

寛永六年

(1629)板

行間に書き入れがある。  
ふたたび虫損している。

また後に、裏打したか、

真名 伊勢物語

(黒川文庫)

版本 一冊(上、下合綴)

寛永二十年

(1643)

京都 沢田庄左衛門板

巻首に六條宮御撰とある。

この真名本は、伊勢物語をすべて漢字で書きかえたもので、所謂万葉仮名により漢字の音や訓を利用して記したもので、六條宮具平親王御撰の由、言い伝えがあり、六條本とも言われているが、

撰者は明確ではない。振仮名は平仮名。

・真名 伊勢物語 (黒川文庫)

版本二冊(上・下) 右と同一の板であり、刊記も同一。

題簽「真字 伊勢物語」

・舊本 伊勢物語 (黒川文庫)

建部綾足 校訂 版本三冊(上・下・考異)

明和六年(1769) 風月庄衛門板、嘉永三年(1850)

黒川真頼 書入

舊本として人の持っていた本を底本とし、六條宮本(真名伊勢物語)と比較し、なお多くの異本を以て考え改めたもので、「考異」

は諸本・異本・六條宮本(真名本)などに分け、少しでも違ったところは列記している。真名本の異本と見るべきものである。振仮名は片仮名。